

黒毛和種肥育牛における飼料用粳米の 肥育全期間多給による牛肉生産

濃厚飼料の大部分を、トウモロコシ等の海外からの輸入穀物に依存しているこれまでの肉用牛肥育経営に対して、飼料用米の多給によるこれまでの肥育と遜色ない牛肉生産技術を開発し、飼料費の削減、生産性の向上および飼料自給率の向上などを実現することを目的に、岐阜県畜産県研究所飛騨牛研究部では、飼料用米を60%配合した飼料による肥育全期間給与試験を行い、牛肉の生産性、牛肉の品質および飼料費などを検討しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 4mm メッシュで粉砕した飼料用粳米を原物で60%配合した飼料を全肥育期間給与する60%区と飼料用粳米を配合しない飼料を給与する対照区を設定し、各区に黒毛和種去勢牛3頭を供試して、1か月間馴致した後、肥育全期間の給与試験を行いました。各区の飼料の原物当たりのTDN含量はそれぞれ69.4%、76.3%でした。
2. 濃厚飼料の摂取量は両区とも14~16か月齢の9kg前後をピークに8kg前後で推移しました。体重増加は18か月齢以降60%区が少ない傾向を示しましたが、飼料効率では両区に差がないことから、TDN含量の影響によると推察されました。
3. 枝肉重量、胸最長筋面積、ばらの厚さ及び皮下脂肪の厚さは60%区で少ない傾向を示しましたが、歩留基準値及びBMSナンバーでは両区に大きな差はありませんでした。
4. 60%区は飼料費が77千円削減しましたが、(枝肉価格－飼料費)は144千円減額しました。



写真1 4mmメッシュで粉砕飼料用米（粳米）



写真2 肥育全期間給与試験の状況



写真3 飼料用米肥育全期間給与の枝肉

☆ 活用面での留意点

試験飼料にはビタミンAを添加していないので、ビタミンAの欠乏症状及び血中ビタミンA濃度の低値な個体にはビタミンA製剤を経口投与しました。詳しくは、岐阜県畜産研究所飛騨牛研究部 浅野琢満（TEL：0577-68-2226）にお問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男）